

1. 調査報告概要表

作成日 2008年4月8日

【評価実施概要】

事業所番号	4770900258
法人名	社会福祉法人 松籟会
事業所名	かりゆしぬ村グループホームくつろぎ
所在地	905-0006 名護市宇宇茂佐1705番地8 (電 話) 0980-51-0070

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺4丁目373-1
訪問調査日	平成20年3月26日(水)

【情報提供票より】(H20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 4 月 30 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低 66 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北部地区医師会病院、北部病院、かじまリハビリクリニック、なごみ医院、こうげん歯科
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは北部中心市街地の主要道路よりやや奥まった小高い丘の周辺に、人家が2〜3軒の静かな場所にある。「認知症高齢者相談室」と書かれた門柱と入居者の笑い声が聞こえる明るい施設である。管理者や職員は入居者と共に支え支えられる関係を大切に日々のケアを行っていることがうかがえ、且つ日中の家族の出入りも多く文字どおり風通しの良さが感じられた。また、火災等緊急発生時、消防署や空き地向こうの母体施設の部長宅とのブザー連結、全職員参加の避難訓練など災害体制がしっかりしている事もホームの大きな特徴である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で指摘された改善点は8項目で、職員一同で話し合いを持ち改善に取り組んでおり、記録として残している。しかし、車椅子の入居者が多いことに対する対策はまだ不十分さが見られ、閉じこもらない対策、介護予防の視点での取り組みが求められる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、職員全体で勉強会を開き自己評価した。一緒に行うことで職員に自己評価のねらいが理解出来た。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域密着型サービスの運営推進会議の意義は充分認識しており、第1回運営推進会議ではその目的や委員の役割、施設の状況等について資料を作成し開催した。しかし、その後は委員の日程調整がうまくいかず開催されていない。メンバーの構成の見直し、開催成立の条件等の検討と委員へ日頃からホームの活動状況(ホーム便り等)の情報提供などホーム側からの積極的関わりが求められる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居者やその家族・ホームとのコミュニケーションは、日常的に家族来訪が多いことから良く取られており、相手の立場に立った視点で不安や苦情・意見を受け入れる姿勢がみられる。運営推進会議の委員として、また、ホームの行事への積極的参加など今後も更なる良き関係の維持に期待したい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	立地条件から見ると、近隣の住民や地域との連携は取りにくさがあるが、前回の評価の指摘を受け、独自に認知症高齢者の相談窓口を設けたり、交流会を開催したりと積極的に地域との連携にアイディアを出し行っている。今後、近くの団地との交流会や地域用のホーム便りの発行、ホーム行事への招待など地域密着型サービス拠点としての施設の活用期待するところである。

2. 調査報告書

1. 調査報告概要表

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念は管理者・職員共に理解しているが、現在、母体組織の経営理念をホームの基本理念とし、且つ組織の標語を活用している。事業所独自の理念についてホームのねらいをイメージし易いよう文章化に向け検討中である。	○	誰もが理解しやすい短い文言を考えているようで、今回、自己評価の最終頁の「アピールしたい点」に記載されている文章が管理者のイメージに近く、それを基に職員と話し合い、ホーム独自の理念をつくりあげて欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、朝礼で経営理念や標語を交互に全員で唱和し、理念の確認と毎日のケアにその心を活かすよう努めているが、職員としては、サービスの中で具体的にどう活かされているか自分の中で評価がしにくい。	○	管理者、職員が入居者へ支援する際、その人らしく暮らし続けるサービスへ取り組んでいるんだとお互いが自信のもてる理念になることを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会や祭りなど地域と母体施設の行事に参加している。ホームの立地状況から地域住民との交流は難しく、事業所独自の交流会を開いたり認知症高齢者の相談窓口を表に掲示するなど努力しているが、交流には発展していない。自治会も未加入のため検討している。	○	現在遠い行政区の自治会か近くの団地自治会か思案中である。また、ホーム便りを家族用のみでなく地域住民用を作成し、ホームのアピールに活用するのも一案と思われる。ホームとしても課題として充分認識しており、今後に期待が膨らむ。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義については勉強会を持ち、評価結果を日常のサービス向上に活用している。また、前回改善点といわれたことについても全員で認識し、改善にも取り組んだことも記録として残している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は昨年の発足時に1回開催しただけで、その後委員の日程調整がつかずに開催していない。1回目の会合は、運営委員会の役割やホームの紹介で終わっている。	○	業務上多忙な職種の選任が開催を困難にしている。会議のスムーズな運営のためにも委員の見直しが求められる。地域密着を図るために地域の民生委員、婦人会などの活用が求められる。また、全員参加でなくても開催できる条件作りも必要と思われる。職員、家族と理解も大きいので今後に期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	主管課が市になったことで、連携が取りやすく、市の方からも敬老会の案内などあり、両者の行事等案内がし易くなった。情報交換や相談を通して市の担当者との連携を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の健康状態や暮らしの様子等、家族との連携は密に行われており、必要時は電話をかけるなど日々の状態や情報交換がとりやすい。これは、毎日のように来所する家族が多いことに起因していると思われる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は設置されていないが、家族の来訪が多く、施設の行事へも積極的に関わっている。来所時や電話対応時に家族の意見や困っていることなど引き出す努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所後5年で9人の異動があるが、これは母体施設との人事となっている。ホームからの直接退職者や新規採用はない。母体施設との異動も極力抑えているが、利用者に不安、戸惑いが生じないよう、また、早く馴染みの関係がつかれるように勤務体制等努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修や事例発表に職員を必ず参加させ、毎年発表もしている。県協議会の研修にも多くの職員を派遣している。母体施設の協力も得やすい。職員の資格取得などの自己啓発に勤務の配慮をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県協議会やケアマネ連絡会および北部の連絡会に加盟し、また、北部地区連絡会の立ち上げに積極的に関わっている。同業者同士の交流会、施設見学など同業者の交流をととしてサービスの質の向上に向け取り組みは始めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規入居者には入所前の生活状況を良く把握し、コミュニケーションを密にし寄り添うケアを中心に不安を取り除くよう対応し、他の入居者とも馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来る限り利用者のやれる力、やりたいと思う気持ちを大事に、本人がしたいことは見守り手伝って貰い、会話や表情等から利用者の不安や思いを聞き出すよう努めている。毎日の生活の中でお互い助け合ったり声かけあって思いやりの心を学んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者個々の言動や様子訴えに耳を傾けると共に、家族から本人の暮らし方や意向を把握したりその人らしく生活できるよう努めている。個室もそれぞれのその人らしさが伝わる雰囲気がある		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のミーティングを通し、職員全体の情報の共有を図っており、また、主治医の意見や家族の意向を聞き取り要望に沿ったケアが出来るよう介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは現在6ヶ月毎に行っている。但し、利用者や家族に変化が生じた時はその都度プランの変更をしている。介護計画の見直しは、ケアチェック表や職員の観察等を基に評価を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望に応じ外出や外泊の支援を柔軟に対応している。また、地域に対しては、認知症相談窓口を設け対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的には家族に同行して貰っているが、本人家族の状況により職員が対応することもある。主治医との連携調整や家族とのパイプ役として支援している。現在、通院診療及び訪問看護を受けている入居者もあり、連携は密である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化あるいは終末期になった場合は、家族、かかりつけ医、職員との話し合いでは母体施設に入所することで話し合いがされているが、今後、家族のニーズに合わせホームでの対応も求められる。現在、家族の意思確認書などを作成するには至っていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の扱いについて認識を深め意識向上を図るため努めている。利用者の誇り、尊厳に留意しプライバシーを損ねないような話しかけや対応について勉強会を持っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは設定されているが、利用者の体調や意向に添ってどのようにしたいかを見極め支援をしており、時間を限定した援助は行っていない。起床時間は本人のペース、朝食は希望にそってパン食、ご飯と異なっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の昼食が入居者の希望で焼き肉であったが、食材のモヤシの根とりをする人やエプロンがけでキッチンに入り職員と一緒に準備や配膳などを手伝う人、後片づけも指示されるのでなく出来ることをそれとなく行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在1日おきの入浴で定着している人が多いが、毎日はいる入居者もあり利用者の体調、気持ちに合わせて行っている。拒否の方には本人の気持ちに添って時間帯など工夫している。(例:早朝落ち着いている人の場合6時から入浴するなど)		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の出来ること、楽しみ毎を把握し、役割を持たせ自信につながるよう支援している。食事の準備、板チリン折り、洗濯干しやたたみなど。簡単な作業であっても感謝の気持ちを伝え接している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週1回の買い物の際、希望する人を同行することもあるが1～2人である。自由に動ける方が少なく車椅子の入居者が5人となっている。ドライブや散歩に出かける時もあるが、日常的に戸外へ出るのは少なく、出たがらない。	○	ドライブや散歩だけでなく、車椅子や重度な入居者が気軽に戸外へ出ることの工夫が求められる。庭や玄関などへ長いすを設置し、手引き歩行で誘導し戸外を楽しむことも考えられる。介護予防の視点を取り入れた工夫にもなる。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外へ出る人の目配りを注意深くすることで日中は各部屋、玄関共に施錠せず自由に出入りが出来る。夜間は家族の出入りがあるので10時頃に玄関の施錠をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所には消防署と母体施設と連携できる緊急通報システム(ホットライン)及び隣家の部長宅との緊急ブザーを設置しており、災害に備えている。消火訓練は、消防署と連携し毎年行っており、職員・入居者共に避難誘導の訓練をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアチェック表を作成し、毎回の食事量を把握しており、毎月実施している体重測定と合わせ栄養状態を把握している。状態に応じて個別に尿量や水分摂取量をチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光・風通しなど配慮したゆったりした空間づくりになっている。居室に通じる一角が庭となりサンルームとしての利用と季節の変化が感じられるようになっている。居間は、事務室と一体化した造りで食卓兼用のテーブル、畳の間があり自由に過ごせるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洋服ダンス、ベット、トイレ、シャワーが備え付けである。各部屋は本人や家族の嗜好が伺われ、使い慣れた好みの調度品が持ち込まれ、馴染みの空間をかもし出している。		